

稚内タツナラシ山ウィンドファーム（仮称）

環境影響評価方法書

— 事業者回答（2次）添付資料 —

## 目次

別添 3-18_2 重要な植物群落等 .....	1
別添 6-45_2 景観調査地点 VP08～12 の垂直見込角（風力発電機設置想定位置） .....	3

別添 3-18\_2 重要な植物群落等

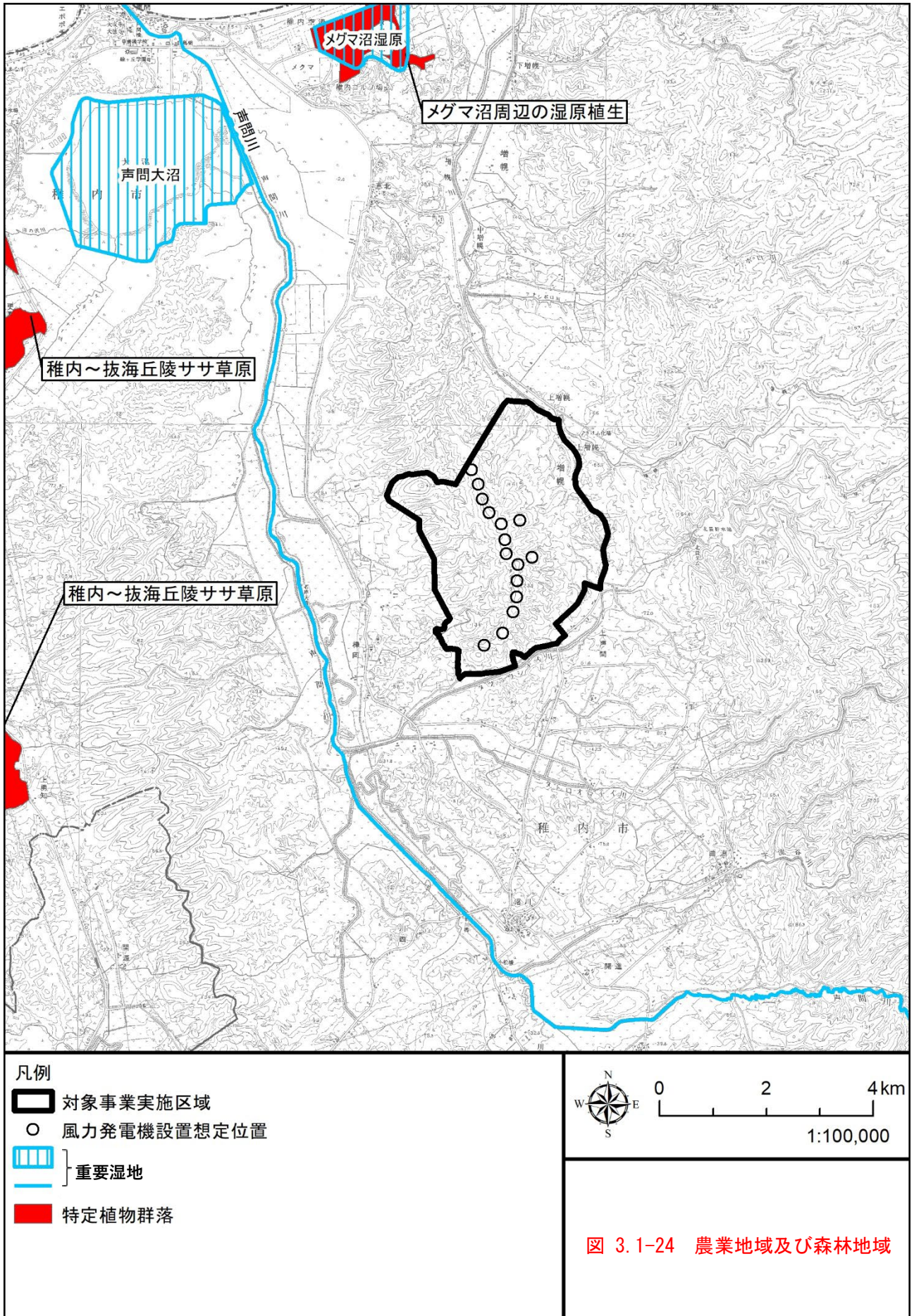
イ. 重要な植物群落等

対象事業実施区域及びその周囲の重要な植物群落等は表 3.1-29 に、重要な植物群落等の位置は図 3.1-24 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、重要な植物群落等として、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」である「メグマ沼湿原，声間大沼・声間川」が存在し、ヨシーイワノガリヤス群落やハンノキ林等が分布する。また、「特定植物群落」である「稚内～抜海丘陵ササ草原」及び「メグマ沼周辺の湿原植生」が存在し、それぞれ「学術上重要な植物群落または個体群」及び「砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの」として選定されている。

表 3.1-29 対象事業実施区域及びその周囲の重要な植物群落等

No.	名 称	選定基準 <sup>注1</sup>	選定理由
1	メグマ沼湿原， 声間大沼・声間川	G 生物多様性の観点 から重要度の高い湿地 (重要湿地)	久種湖と並び国内最北の湿原の一つ。ワタスゲ、エゾゼンテイカが優占する。ヨシーイワノガリヤス群落。ハンノキ林など。ガンコウラン、ヒメシャクナゲが生育する。
2	稚内～抜海丘陵ササ草原	F 特定植物群落	その他、学術上重要な植物群落または個体群
3	メグマ沼周辺の湿原植生	F 特定植物群落	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの



出典：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」

(環境省 HP [https://www.env.go.jp/nature/important\\_wetland/wetland/p01\\_01\\_hokkaido.html](https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/wetland/p01_01_hokkaido.html))、2023年12月確認  
 「特定植物群落調査」(環境省 HP <http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=tk>)、2024年8月確認

別添 6-45\_2 景観調査地点 VP08~12 の垂直見込角（風力発電機設置想定位置）

表 1 景観調査地点 VP08~12 の垂直見込角

種別	調査地点 No.	地点名	風力発電機設置想定位置 までの距離	垂直見込角 <sup>注</sup>
日常的な視点場	VP08	恵北地区	約 5.5km	2.1°
	VP09	増幌地区	約 1.2km	9.4°
	VP10	上声問地区	約 1.3km	8.7°
	VP11	権岡地区	約 2.3km	4.9°
	VP12	稚内市自然体験施設	約 1.7km	6.1°

注 地形や地物（樹木や建物等）による遮蔽を考慮しない。